

読書感想文に取り組みみなさんへ
～あなただけの「言葉」を聞かせてください～

みなさんは本が好きですか？「読書は心の栄養」と言われます。本を開くと、自分が知らない世界に行けたり、新しい考え方に出会えたりして、私たちの心はどんどん豊かになっていきます。

「子どもの頃に出会った本は、自分にとって一生の宝物になる」

「子どもの頃の本との出会いは、自分にとって一生の思い出になる」

私たちはそう思います。なぜなら、大人になった私たちが、家族や先生に読み聞かせてもらった本や手にとって読んだ本のことを今でもはっきりと覚えているからです。そして、それらの本は全て、今の自分の考え方や感じ方に少なからず影響を与えてくれました。私たちの1番の願いは「みなさんにたくさんの本と出会ってほしい！」ということです。

みなさんは、読書感想文を書くことのよさは何だと思いますか？私は、文章を書くことで、自分が本からもらった感動やよさをほかの人に伝えられることや改めて自分の気持ちを見つめ直すことができることだと思います。

自分が感じたことや考えたことを文章に表した感想文は自分にしか書くことができない宝物です。ぜひ、みなさんもその本と出会って感じたことや考えたことを、自分の言葉で書き表してみてください。大切なのは、最後まで本を読み、自分の心に残ったものをじっくり見つめ、自分の心の呟きにしっかり耳を傾けることです。

あなたは世界に一人だけの存在です。そのあなたの心も、もちろん世界に一つだけのものです。文章が整ってなくても構いません。私たちは、みなさんの心の中からあふれ出た、世界に一つだけの感想文を楽しみに待っています。

保護者の皆様や先生方へ

いつも子どもたちと本との出会いを大切にいただき、ありがとうございます。今年度の読書感想文コンクールの長野県課題図書の一つ『読書感想文が終わらない！』（額賀 滯/作 satsuki/絵 ポプラ社）に登場するフミちゃんが、読書感想文についてこう語っています。「読んだ本のしょうかいをしたり、すごいところやタメになる部分を説明する作文じゃないよ。その本を読んだ自分のことを書くんだから、どっちかっていうと、日記のほうが近いよ」（P28）「その本を読んだ自分を読みとくんだよ。（P157）」と。

「最後まで本を読んで、その本から感じたことを、自分の言葉で書いてごらん。それでいいんだよ。それが一番大切なんだよ。」そんな風にお子さんに声をかけてください。

令和8年6月

ながのけんとしょかんきょうかいしやうちゆうがっこうとしょかんぶかい
長野県図書館協会 小中学校図書館部会